

## 校報かめのこ

福生六小ホームページ <http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/>

か	考える子
め	めげない子
の	伸びる子
こ	心豊かな子



## 鳥の鳴き声

福生市立福生第六小学校  
統括校長 榎並 隆博

令和5年度のスタートは4月3日でした。いつもより暦の関係で少し遅いスタートの初日のことです。福生駅からいつものコースを通過して学校に向かう途中、とてもよく響く鳥の鳴き声が聞こえてきました。随分音量があつてよく響く声ですが、あまり聞き覚えがありません。元来、それほど鳥に興味があるわけではないので、そのまま通り過ぎようとしたときに、「もしかするとウグイスかな？」と気付きました。ウグイスの鳴き声といえば「ホーホケキョ」です。おそらく鳥の中では「コケコッコ」に次ぐメジャーな鳴き声だと思のですが、なぜ「もしかすると・・・」と思ったかという、その鳴き方があまりにも下手だったからです。そもそもキーが合っていません。妙に高くしかもフラットな音階なので、とても「ホーホケキョ」とは聞こえてこないのです。

担任をしていた頃、4月1日に新年度が始まって、始業式・入学式を迎えるまでの数日は新年度のための準備作業をしますが、その中で遠足の下見によく行っていました。山に入るとウグイスの鳴き声が聞こえてくるのですが、やはりあまり上手な鳴き声ではありません。不思議に思っていると先輩の教員が「この時期はまだ下手なんだよね。これから練習を重ねていくんだよ。」と教えてくれました。今年の4月3日に私が聞いた不思議な鳴き声は、まさに練習中のウグイスのものでした。

それにしても、つい顔がほころんでしまうような練習の日々が続きます。毎日少しずつ鳴き方が変わります。「○—○○○○」。○の中に何の文字を入れるとよいか、よく分からない音が聞こえるのですが、リズムはいい感じです。でも一拍多い。「○○○○」。拍数は合い始めましたが、伸ばすところが抜けている。「ホー○○○」。惜しい！でも音階が高い！みたいなことを、毎朝そこを通るたびに耳にし、半笑いになりながら「がんばれよ」と心の中で声をかけていました。

ウグイスは縄張りを広げるため、一カ所にとどまりません。朝の練習が聞こえなくなって数日後、帰りがけに遠くからあの鳴き声が聞こえてきました。残念ながらまだまだ、練習が必要なようです。

調べてみると「ホーホケキョ」と鳴くのはオスのみで、やはり、7月頃までの間、メスを引き寄せるために一生懸命練習するそうです。生き物にとって繁殖は重要な「生きる意味」ですから、もしかすると命がけの練習なのかもしれません。そして大事なことはここからです。この練習のお手本は、親の鳴き声だということです。親が下手だと子どももなかなか上手にならないということです。それでもとにかく練習を重ねたウグイスは、繁殖期を迎える頃には、「ホーホケキョ」と鳴くそうです。

親のお手本も大事だし、本人の努力も大事だと言われると、全く人間も同じ法則の中にいるようです。「ホーホケキョ」が聞けるのは、一年の中で、この時期だけだそうです。よかったら、半笑いになりながら応援してあげてください。